

古墳詳細分布調査概報

2

1992

埼玉県教育委員会



行田市 齋条1号墳(剣神社)



行田市 小見真観寺古墳



加須市 鶴ヶ塚古墳



羽生市 永明寺古墳



春日部市 塚内3号墳



杉戸町 No.67古墳(木野川古墳群)



菖蒲町 夫婦塚古墳



庄和町 向之内古墳



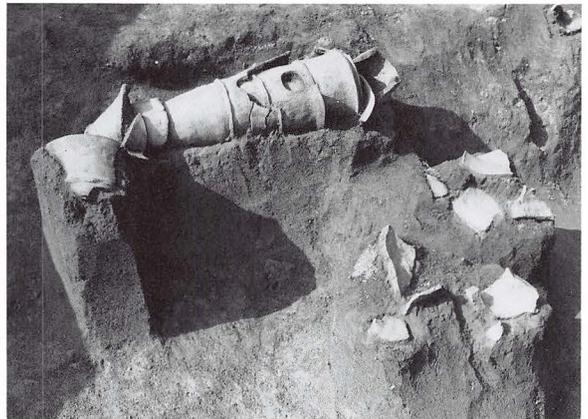
杉戸町 目沼10号墳 第1トレンチ周堀検出状態



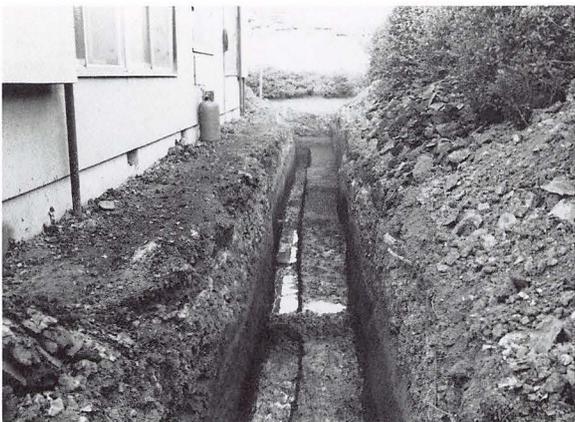
杉戸町 目沼10号墳 第3トレンチ埴輪出土状態



杉戸町 目沼10号墳 第4トレンチ円筒埴輪棺出土状態



杉戸町 目沼10号墳 第4トレンチ円筒埴輪棺出土状態



行田市 八幡山古墳 第1トレンチ墳裾検出状態



行田市 八幡山古墳 第3トレンチ墳裾検出状態



川里村 舟塚古墳 第2トレンチ周堀検出状態



川里村 舟塚古墳 周溝・周堀壺出土状態

例 言

1. 本書は、埼玉県教育委員会が文化庁の国庫補助金の交付を受けて、平成元年度から平成5年度にかけて実施する埼玉県内所在古墳詳細分布調査のうち、平成3年度に行った調査の概報である。
2. 調査の期間は、平成3年4月から平成4年3月までである。
3. 調査主体は埼玉県教育委員会で、実施機関として埼玉県立さきたま資料館が当たった。調査は事務局を、県教育局指導部文化財保護課、埼玉県立さきたま資料館に置き、調査専門委員の指導のもとに、各地区調査員及び関係市町村教育委員会並びに地元地権者、住民の方々の協力を得て実施した。
4. 調査結果の整理、図版の作成、写真撮影は、県立さきたま資料館職員が当たり、中山浩彦氏（国学院大学卒業生）の協力を得た。
5. 本書の執筆、編集は県立さきたま資料館学芸課（課長 大友 務、学芸員 大和 修・石川博行・若松良一）が当たった。
6. 調査の対象は古墳であるが、古墳とは断定できないものでも、古墳に類すると考えられるもので、その可能性のあるものについては対象に加えた。

目 次

例 言

1. 調査の概要	1
2. 調査実施要項	2
(1) 調査対象	2
(2) 全体の計画	2
(3) 平成3年度調査地区	2
(4) 調査方法	2
(5) 調査カード	3
3. 調査の組織	4
4. 概況調査について	5
資 料	6
◦北埼玉・南埼玉・北葛飾郡市の古墳	
◦平成3年度古墳詳細分布調査対象地域主要古墳一覧（北埼玉・南埼玉・北葛飾郡市）	
5. 平成3年度試掘・測量調査について	7
(1) 目沼10号墳（杉戸町）	7
(2) 八幡山古墳（行田市）	7
(3) 舟塚古墳（川里村）	9
6. おわりに	11

あ と が き

1 調査の概要

埼玉県は首都東京に隣接しており、近年開発の波は県北部にまで及び、宅地化と工場進出により、その変貌には目を見張らせるものがある。

埼玉県教育委員会では、これらの開発行為に対処すべく、埋蔵文化財の保護・保存に努めてきており、昭和32年度から昭和40年度にかけて県内の古墳分布調査を実施した。しかしその後、消滅してしまったり、削平された古墳や、開発に伴う発掘調査等によって古墳跡が発見された事からその存在がわかった古墳、そして新たに発見された古墳もあり、近年の各種の開発により遺構の破壊・消滅の恐れが懸念され、従来の資料では十分な対応が困難となった。

そこで、古墳の基礎資料を充実させるとともに、今後の開発行為等との調整を図るため、国の文化財保存事業費補助金を得て、平成元年度から5か年計画で、県下の古墳の所在確認のための調査を開始した。

初年度から4年間は、県下全域の調査と関連資料調査を行うこととし、埼玉県埋蔵文化財包蔵地カードから古墳を抜き出し、リストを作成した。調査カードは包蔵地カードをもとにして、古墳群調査カード、古墳調査カード、補助カードを作成した。

平成3年度は、北埼玉・南埼玉・北葛飾郡市を対象とした。調査は、平成元年度・2年度と同様、調査専門委員の先生方の指導、助言を得ながら、12人の地区調査員と事務局で実施した。

地区調査員の方々には、担当地区の遺跡台帳やリストをもとに、現地踏査を実施し、現況写真等の資料を貼付した古墳カードの作成をお願いし、古墳の位置を記入した地図と共に、提出していただいた。

概況調査は、6月から7月にかけて、関係市町村教育委員会の協力のもとに、事務局職員と地区調査員で現地踏査を実施した。この結果に基づいて、10月から翌年1月にかけて詳細調査を行った。

詳細調査は試掘・測量調査を行った。調査対象古墳として、北埼玉郡市で2か所、南埼玉郡市で1か所の計3か所を選定した。調査は、墳形の確認のための平板測量と、周堀と墳裾等、範囲確認のために、数本のトレンチを設定した試掘調査を実施した。調査に当たり、限られた調査の中で最大の成果を得よう、留意した。

関連調査として、県内の古墳に関する文献資料や、地図・図面類の収集や昨年度までの補足調査を行った。

2 調査実施要項

(1) 調査対象

埼玉県所在の古墳、あるいは消滅したと推定される古墳、及び新たに発見された古墳跡等の他、関連遺構も対象とする。

(2) 全体の計画

年 度	調 査 地 区	関連資料調査
平成元年度	入間・比企郡市（24市町村）	全 県
平成2年度	秩父・児玉郡市（16市町村）	
平成3年度	北埼玉・南埼玉・北葛飾郡市（25市町村）	
平成4年度	北足立・大里郡市（27市町村）	
平成5年度	全県補足調査及び調査報告書の作成	

(3) 平成3年度調査地区

現 地 調 査	北埼玉郡市	行田市 加須市 羽生市 騎西町 大利根町 北川辺町 南河原村 川里村
	南埼玉郡市	春日部市 岩槻市 越谷市 久喜市 八潮市 蓮田市 白岡町 菖蒲町 宮代町
	北葛飾郡市	三郷市 幸手市 栗橋町 鷲宮町 杉戸町 吉川町 庄和町 松伏町
関連資料調査		全 県

(4) 調査方法

ア 事務局の調査員の調査

○概況調査

埼玉県埋蔵文化財包蔵地調査カードに記載された古墳を抜き出し、リストを作成し、それに基づいて現状調査を進める。

○詳細調査

概況調査に基づき、現状の墳形確認のために平板による測量調査を実施し、さらに遺構の遺存状況等を試掘調査で確かめる。

○関連資料調査

古墳に関する報告書等の文献、及び発掘調査等で知られる遺構・遺物に関する資料の収集・整理。

イ 地区調査員の調査

担当地区の古墳について現地調査し、現況の写真撮影を行い、調査カードを作成する。

(5) 調査カード

埼玉県所在古墳群調査カード

県 番 号		名称		埼玉県所在古墳群調査カード	
市町村番号				所在地	郡 市町村
整理番号		指定	国 県 市町村	重要遺跡	
墳 形	円墳	基	方墳	基	備考
	前方後円墳	基			
	その他()			基	
立 地					
調 査 歴		調 査 古 墳			
年 月 日～ 年 月 日					
年 月 日～ 年 月 日					
年 月 日～ 年 月 日					
年 月 日～ 年 月 日					
年 月 日～ 年 月 日					
調 査 者			調 査 年 月 日	年 月 日～ 年 月 日	

埼玉県立さきたま資料館

埼玉県所在古墳調査カード

県 番 号		名称		埼玉県所在古墳調査カード	
市町村番号				所在地	郡 市町村
整理番号		指定	国 県 市町村	重要遺跡	
地 目	山林	原野	畑 田	宅地	その他()
立 地	山地	丘陵	台地	自然堤防	低地
墳 形	円墳	方墳	前方後円墳	その他()	
規 模	全長(直径・辺長)		高		備考
外 部 施 設	埴 輪	有・無・不明	葺 石	有・無・不明	
周 堀	有・無・不明 ()				
埋 葬 施 設	横穴式石室・竪穴式石室・粘土槨・箱式石棺 その他()				
出 土 遺 物	保管場所				
文 献	調査歴				
	調査図	有 無	縮 尺		
調 査 者			調 査 年 月 日	年 月 日～ 年 月 日	

埼玉県立さきたま資料館

3 調査の組織

事業主体者

埼玉県教育委員会 教育長 竹内 克好

実施機関

埼玉県立さきたま資料館 指導部参事兼館長 大村 進

調査専門委員

埼玉県文化財保護審議会委員 柳田 敏司

埼玉県文化財保護審議会委員 小林 茂

埼玉考古学会副会長 金井塚 良一

地区調査員

斎藤 国夫 (行田市) 古谷 豊 (加須市・大利根町・栗橋町)

矢口 孝悦 (羽生市) 島村 範久 (騎西町・川里村)

新島 喜久雄 (南河原村) 鈴木 郁夫 (春日部市)

小林 照教 (岩槻市・越谷市) 大塚 孝司 (蓮田市・北川辺町)

三ツ木 貞夫 (菖蒲町・久喜市) 青木 秀雄 (宮代町・白岡町)

島村 薫 (杉戸町・幸手市) 金沢 文雄 (庄和町・松伏町・吉川町・三郷市・八潮市)

調査員

埼玉県立さきたま資料館

専門調査員兼学芸課長 大友 務

学芸員 大和 修

学芸員 石川 博行

学芸員 若松 良一

学芸員 田中 裕子

事務局

埼玉県教育局指導部文化財保護課

課長 早川 智明

主幹兼課長補佐 吉川 國男

埋蔵文化財係長 高橋 一夫

庶務係長 千村 修平

主査 水村 孝行

主任 伊勢 弘明

主事 上木 孝子

埼玉県立さきたま資料館

指導部参事兼館長 大村 進

副館長 佐古 英捷

庶務課長 小林 栄一

主任 柿沼 房雄

主任 松本 幸子

協力機関等

行田市教育委員会

大利根町教育委員会

春日部市教育委員会

八潮市教育委員会

菖蒲町教育委員会

鷲宮町教育委員会

松伏町教育委員会

関係土地所有者各位

加須市教育委員会

北川辺町教育委員会

岩槻市教育委員会

三郷市教育委員会

宮代町教育委員会

杉戸町教育委員会

地元関係者各位

羽生市教育委員会

南河原村教育委員会

越谷市教育委員会

蓮田市教育委員会

栗橋町教育委員会

吉川町教育委員会

騎西町教育委員会

川里村教育委員会

久喜市教育委員会

白岡町教育委員会

幸手市教育委員会

庄和町教育委員会

4 概況調査について

平成3年度の調査対象地域は、北埼玉・南埼玉・北葛飾郡市である。埼玉県東側は、大宮台地が徐々に低くなって、加須・羽生市周辺では、埋没ローム台地となり、現状では、上に厚く氾濫土が堆積し、関東造盆地運動と相俟って、低地となっている。行田・羽生・加須市周辺では、これらの沖積低地にある、利根川や古利根川に臨む低い台地や微高地上に古墳が築造されている。さらに南の、元荒川流域の内牧や岩槻台地、そして、下総台地の西端に、古墳が集中して築かれている。この地域に古墳が作られるようになるのは、比較的新しく、古墳時代後期、5世紀末から6世紀に入ってからのものであった。

昭和36年に行田市の利根川にほど近い、斎条で水田の下から埴輪列が見つかり、通常の台地や丘陵上でなく、現在は低地になっている場所にも、古墳が造られていた事が判明し、その後、この近くの酒巻古墳群、大稲荷古墳群等が調査されている。また、昭和54年には、羽生市小松で水道工事中に地下から石組が見つかり、これも横穴式石室の一部であった、小松埋没古墳群、尾崎古墳群等がある。最近では、行田市の真名板高山古墳でも、弾性波探査等によって、現地表下数mに、古墳時代の地表があった事が確かめられており、埋没してしまった古墳も数多くある事が推察される。このように、単なる現地踏査だけでは、なかなか古墳の存在を把握する事難しい地域であるが、近年、様々な開発行為に伴う緊急発掘調査により、徐々に古墳に関するデータも集まり始め、又、近年、埋蔵文化財担当者を専任で置く市町村も増え、それと共に、生涯教育・学校教育から郷土の文化財に目を向ける気運も高まり、いくつかの市町村では、古墳を整備・保存し、地域の人々に積極的に活用してもらおうと言う計画を立案中と聞く。また一方では、昭和30年から40年度にかけて行った古墳調査の後、破壊されてしまった古墳も数か所ある。

特に、この地域では、行田・加須・羽生・菖蒲・春日部・杉戸の各市町に古墳が集中しており、古墳のない市町村もあるが、近年の調査により古墳が確認された騎西町や、今回の踏査によって、確認した川里村の例などもある。また、菖蒲町東浦古墳のように、担当者の丹念な調査によって、前方後円墳を発見した例もある。特に、この元荒川流域は、治水等、近世の開発により姿を変え、また、消滅した古墳も多いようである。そして、春日部市の内牧古墳群は、個人の屋敷地内に小円墳群が良く保存されている稀有な例である。杉戸町の目沼古墳群は、下総形の円筒埴輪が出土し、県内でも特異な地域にあるが、近年、開発によって大部分の古墳は削平、或いは消滅してしまった。しかしながら、幸い町によって保存されて来た目沼10号墳を確認調査することができた。

資 料

北埼玉・南埼玉・北葛飾郡市の古墳

北埼玉郡市	古墳数	南埼玉郡市	古墳数	北葛飾郡市	古墳数
行田市	115	春日部市	13	三郷市	0
加須市	10	岩槻市	5	幸手市	0
羽生市	33	越谷市	0	栗橋町	1
騎西町	3	久喜市	0	鷲宮町	0
大利根町	0	八潮市	1	杉戸町	28
北川辺町	0	蓮田市	9	吉川町	0
南河原村	5	白岡町	0	庄和町	4
川里村	1	菖蒲町	12	松伏町	0
		宮代町	2		
合計	167	合計	42	合計	33

(平成4年2月現在)

平成3年度 古墳詳細分布調査対象地域主要古墳一覧(北埼玉・南埼玉・北葛飾郡市)

郡	市町村	主 要 古 墳 (群) 名	試掘・測量調査
北 埼 玉 郡 市	行田市	酒巻古墳群、斎条古墳群、小見古墳群(小見真観寺古墳)、若小玉古墳群(八幡山古墳、地藏塚古墳)、白山古墳、埼玉古墳群(丸墓山古墳、稲荷山古墳、将軍山古墳、二子山古墳、愛宕山古墳、瓦塚古墳、鉄砲山古墳、奥の山古墳、中の山古墳、戸場口山古墳、浅間塚古墳、神明山古墳)、小針鎧塚古墳、真名板高山古墳	八幡山古墳
	加須市	鶴ヶ塚古墳、樋遣川古墳群(御諸塚古墳、浅間塚古墳、稲荷塚古墳)、大越古墳群(稲荷塚古墳、八幡塚古墳、浅間塚古墳)	
	羽生市	新郷古墳群(前浅間塚古墳)、羽生古墳群(毘沙門山古墳、保呂羽堂古墳)、今泉古墳群(熊野塚古墳)、尾崎古墳群(浅間塚古墳、遍照院古墳)、村君古墳群(永明寺古墳、御廟塚古墳)、小松古墳群(埋没古墳)	
	騎西町	小沼耕地遺跡	
	南河原村	とやま古墳(跡)	
	川里村	舟塚古墳(跡)	舟塚古墳(跡)
南 埼 玉 郡 市	春日部市	内牧塚内古墳群(13基中7基現存)	
	岩槻市	浄安寺境内古墳(跡)、塚の腰古墳	
	蓮田市	十三塚古墳群、佐々原古墳(滅)	
	菖蒲町	栢間(かやま)古墳群(天王山塚古墳、押出塚古墳、大日塚古墳、禿塚古墳、夫婦塚古墳)、東浦古墳	
	宮代町	姫宮神社古墳群	
北 葛 飾 郡 市	杉戸町	目沼古墳群(20基中3基現存・3号墳・10号墳[浅間塚]・17号墳・他は削平又は消滅)、木野川古墳群(8基現存・No.60~67号墳)	目沼10号墳
	庄和町	向之内古墳	

5 平成3年度試掘・測量調査について

平成3年度の調査は、従来、良く知られているが、その実態が不明な目沼10号墳、巨大な石室で知られるが、終末期古墳として、墳形が今一つ良くわからない上、周辺に開発が及んでいる八幡山古墳、そして墳形が不詳であった川里村舟塚古墳を対象とした。

(1) 目沼10号墳

所在地 北葛飾郡杉戸町目沼字浅間398

立地 目沼古墳群は江戸川を東に望む、宝珠花台地上の東西300m、南北500mほどの範囲にあり、消滅したものを含め、総数20基が確認されている。10号墳は、古墳群中の南にあり、昭和41年に町教育委員会で調査を行い、鈴杵葉が出土した9号墳や、8号墳とは小支谷を隔てた台地端部にある。

現況 もとは墳頂部に浅間社が祀られており、その為の盛り土と思われる2m程の急に高くなっている部分がある。また、周囲は土取によってかなり変形しているようである。直径28m程の、南北にやや長い円墳状を呈している。保存状態は良い。

調査の概要 試掘・測量調査の結果、後円部径30.4m、高さ5m（推定）程、前方部を含む全長は46mを越える前方後円墳と確認された。

試掘調査は、敷地の中で周堀の確認が可能と思われる、南北の対角線方向に第1・第2トレンチを設定した。

墳丘南側の第1トレンチでは、幅4.8m、深さ1.2mの周堀を検出した。埴輪は2条の突帯をもつ円筒埴輪と朝顔形埴輪が覆土中から出土しており、古墳の年代は6世紀前半から中葉と推定される。

墳丘北側の第2トレンチでは、幅5m、深さ1.1mの周堀を検出し、覆土中からは、多量の円筒埴輪片が、あたかも投げ込まれたかのような状態で重なって出土した。

第3トレンチは、墳丘が南西に向かって張り出した部分に設定したが、周堀はさらに外側に延びており、前方部は予想よりかなり大きいことが推定された。埴輪は、第1・第2トレンチとほぼ同様に、墳丘から周堀へ転落したような状態で出土した。

第1・第2・第3トレンチの状況と地形から推定すると、前方部は敷地外へ延びるようであり、前方後円形をさらに確定するため、第4トレンチは括れ部の存在が推定された第1トレンチの北に隣接した部分に設定した。

第4トレンチでは、括れ部と、周堀の外側の立ち上がりを検出した事から、周堀は相似形に回るものと推定される。また、括れ部に近い、覆土中に掘り込まれた土壌から、円筒埴輪棺が出土した。

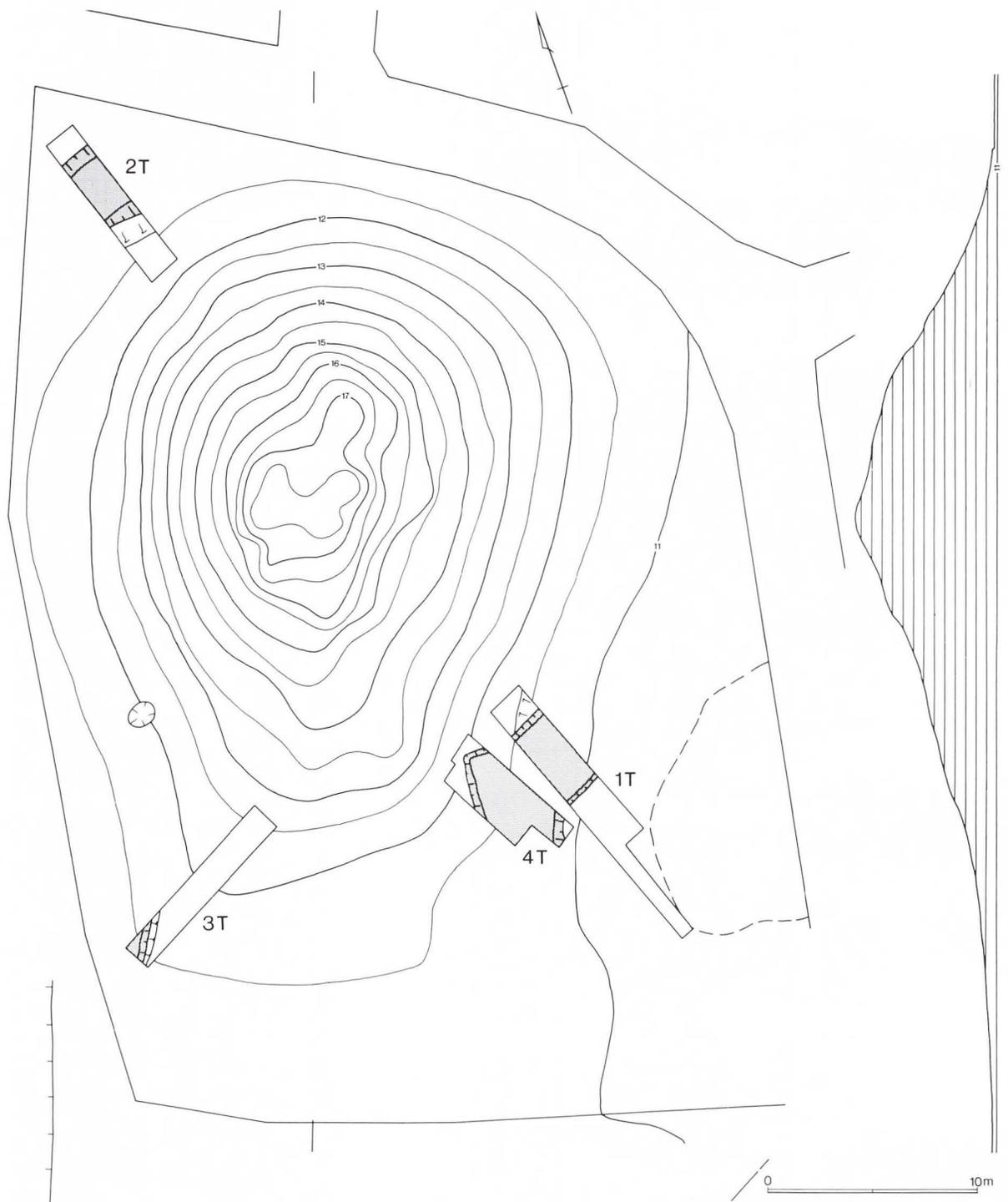
(2) 八幡山古墳

所在地 行田市藤原町2丁目27-2

立地 若小玉古墳群は、行田市の市街地の東方、南に埼玉古墳群を望む埋没ローム台地上にあり、かつては8基の古墳によって構成されていた。

現況 八幡山古墳は昭和10年頃に土取の為、石室が露呈し、昭和52年から54年にかけて県教育委員会により、石室の復原が行われた。その際に、周堀部分の一部にトレンチによる確認調査が実施されている。現在は工業団地の中にあり、石室と墳丘の一部が整備されて公園となっている。

調査の概要 試掘調査の結果、直径約80mの円墳と確認された。調査は、前回の確認調査を補足する意味で、



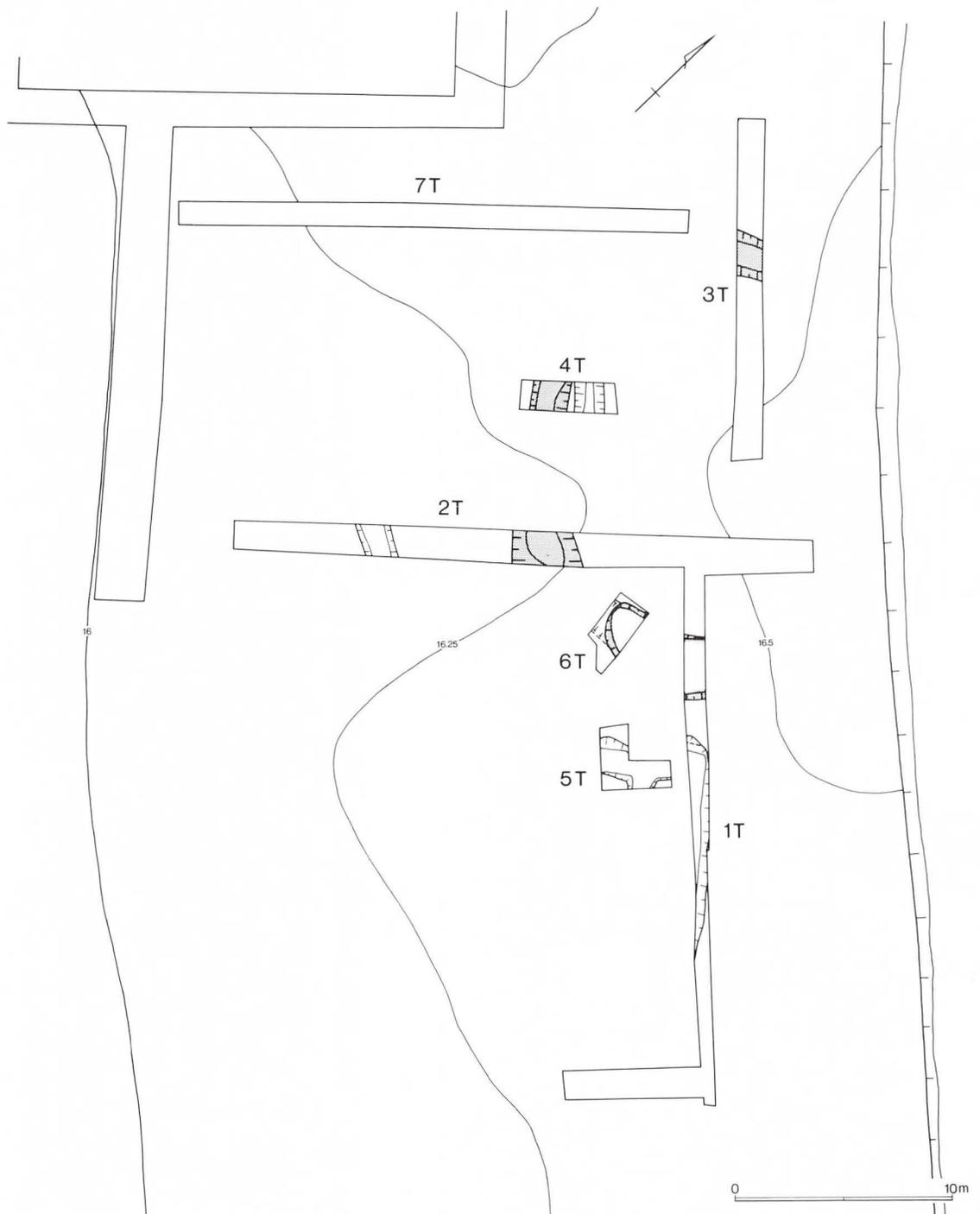
第1図 杉戸町目沼10号墳測量図

主体部の南西部から南東部へかけての公園の敷地内に4本のトレンチを設定して行った。

最も西よりの第1トレンチでは、良好なローム土と黒色土による版築と周堀を検出した。また、墳裾から10m程外へ延びた部分でも、外側の立ち上がりは検出されなかった。

前庭部方向の墳裾部分に設定した第2・第3トレンチでは、第1トレンチとほぼ同様のローム土、黒色土による版築と周堀を検出し、若干の須恵器片や石屑等が出土した。

最も東よりの第4トレンチは、植え込みとコンクリート製の溝による墳裾表示を避けて、墳裾から15m程外に向かって設定したが、周堀の外側の立ち上がりは検出できなかった。



第3図 川里村舟塚古墳測量図

古墳の周堀を確認し、覆土中から土師器杯が出土した。以上の周堀の検出状況から、古墳（跡）の規模は、墳裾で直径19~20m程の円墳と確認された。また、時期は6世紀~7世紀初頭と思われる。さらに、第2トレンチ、第4トレンチでは、古墳時代前期の土師器壺が出土している。特に、第4トレンチ出土の壺はほぼ完形で、底部穿孔されており、方形周溝墓に伴なう溝と推定され、第2・4トレンチは各々別の溝と考えられる事から、2基の方形周溝墓の存在が推定できる。又、第1トレンチ、第5トレンチで検出された堀は、土層の観察から、近世のものと思われ、地元の方の話による、ゴボウイン（御坊院か？）と呼ばれる草堂に伴なうものと推定される。

6 おわりに

古墳詳細分布調査は、県内の古墳の所在確認調査と主要古墳の範囲確認を目的として、平成元年度から5ヵ年計画で開始した。初年度は、入間・比企郡市、2年度は秩父・児玉郡市を対象として調査を実施した。その概要は昨年度の古墳詳細分布調査概報1にまとめた。3年度は、北埼玉・南埼玉・北葛飾郡市を対象として、調査を実施し、242基を確認した。今年度の調査で気づいた点をいくつか述べてみたい。

今回の対象地域である、北埼玉・南埼玉・北葛飾郡市は、埋蔵文化財包蔵地カードから作成したリストによっても、163か所と古墳数の少ない地域である。しかも、その約半数は行田市周辺に集中している。

また、この地域は、利根川・荒川にはさまれ、特に利根川沿いの行田・羽生・加須市周辺は、古くは斎条古墳群、大稲荷古墳群、そして羽生市小松埋没古墳群、さらに調査の続けられている真名板高山古墳等の例に見るように、古墳時代のこの地域の地形は、現在の平坦な低地と言った印象とは相当な隔りを感じさせる。ローム台地と沖積低地による、起伏のある地形が随所に拡がっていた事は想像に難くない。また、それは、今回の調査でも、表面観察のデータによるしかない訳であるが、今後の開発に際しては、地表下数mの未知の遺跡のある事も考慮しなければならないと思われ、その為には、行田市真名板古墳等の試掘方法が一つの示唆を与えてくれるものと思われる。

元荒川や古利根川流域の、規模の小さい古墳群にあっては、その多くが、個人の宅地内にあり、これをどう保存して行くのか、と言った課題も近々に解決を迫られる事となろう。

また、杉戸町目沼古墳群のように、既に、その多くが削平されてしまっており、民家の建て替え等の再開発を待って、きめ細かな調査をせざるを得ない所もある。幸い、ここでは目沼10号墳が町によって、保存されており、今回の試掘・測量調査でも町教育委員会の一方ならぬ御協力を頂き、多大な成果を上げる事ができた。町としても、この前方後円墳を近くの木野川古墳群とあわせて調査を進め、保存整備し、活用したいとの意向もあるやに聞く。そして、川里村舟塚古墳の調査では、古墳の片鱗すらつかめなかったこの地域にもかつて古墳があった事、そして、周辺部でも埴輪片が採集されている事から、この他にも、6世紀代の古墳が存在する事は考えられ、舟塚の名称からイメージする、前方後円墳がまだ近くにあるのかも知れない。この地域では、先に上げた自然の要因や、中・近世の開発により地下に眠る古墳や、古墳跡も多くあるものと思われる。

今回の概況調査および、試掘測量調査に当っては、若干なりとも成果を上げる事ができたとすれば、それは、忙しい時間をさいて、その任に当たってくれた地区調査員諸氏、そして関係市町村教育委員会の担当者の方々の努力に負う所、大なるものがあつた。記して感謝する次第である。

あ と が き

1979年の第二次石油危機以来、我国はもとより世界各国は低成長経済体制への移行を余儀なくされ、経済成長は鈍化の状況にあります。しかし他方、埼玉県を取り巻く状況としては、東京都心部に政治・経済・文化等の諸機能が集中する一極依存の都市構造から、多極分散型構造への転換が迫られ、首都隣接の本県では、若干ペースが緩やかになったとはいえ、なお継続して都市化や開発事業の進行が見られる現状にあります。加えて近年は、地域づくりにおける文化の役割が重視され、とりわけ地域の歴史と風土に根ざした埋蔵文化財に対する関心には、極めて高いものがあります。そこで県土の開発と調和させて、県民共通の文化遺産である貴重な文化財の保存と活用を図っていくことは、次の世代に対する私達の重要な責務と考えられます。

そのため、県教育委員会では、県内に広範に分布している豊かな学術情報を内蔵し、かつ所在地の地理的好条件から開発との調整を瀕出している古墳について、適切なる保護措置を講ずる必要から国庫補助金を得て、平成元年度から5か年の計画で「埼玉県内所在古墳詳細分布調査」を実施してまいりました。

この調査は、調査専門委員の指導助言を得ながら古墳や古墳群の所在・分布、その保存状況を概括的に把握する概況調査と、特に保護措置上注目すべき幾つかの古墳について範囲確認の試掘調査や測量図の作成を行う詳細調査、及び関連資料調査の3つから成っています。

本書は、平成3年度（第3年次）において実施した北埼玉・埼玉葛都市の調査概況報告書であります。この地域は、県の地域別構想において県南東部地域と位置づけられ、水と緑の豊かな穀倉地帯であります。ここは肥沃な土砂を堆積した平坦な沖積地が多く、大小の河川が縦横に流れ、しばしば水災をこうむった所でもあります。そのため埋没してしまった古墳も多々あるやと思われ、県内の他地域に比べ確認できる古墳数も少なく、この調査では240余基を確認いたしました。しかし確認した古墳の学術的内容は埼玉古墳群をはじめとして注目すべきものが多く、この地の特色ともなっています。

平成3年度はこれらのうち、目沼10号墳（杉戸町）、八幡山古墳（行田市）、舟塚古墳（川里村）の3か所について詳細調査を実施し、その成果の一部は本書にも紹介されているとおりです。なお、この事業についてはあと2年を残し、最終年次には補助調査を含めた調査結果を報告書として刊行し、今後の文化財保護行政に活用していただく所存であります。従ってすでに調査を終了した地域を含め、今後新しい情報の見出されることも多いと思われるので、引き続き関係各位の情報提供についてご協力をお願いする次第です。

終わりに、この調査に当たりご高配を賜った地主各位や発掘調査に参加された地元の皆様方、並びにご懇切なご指導、ご協力くださった調査専門委員・地区調査員・文化庁・関係市町村教育委員会に対し、厚く感謝申し上げます。

平成4年1月24日

埼玉県教育局指導部参事

兼埼玉県立さきたま資料館長

大 村 進

古墳詳細分布調査概報
2

平成4年3月15日

発行	埼玉県教育委員会
編集	埼玉県立さきたま資料館
印刷	文明堂印刷株式会社